

新潟県

平成5年

# 公民館月報

3月

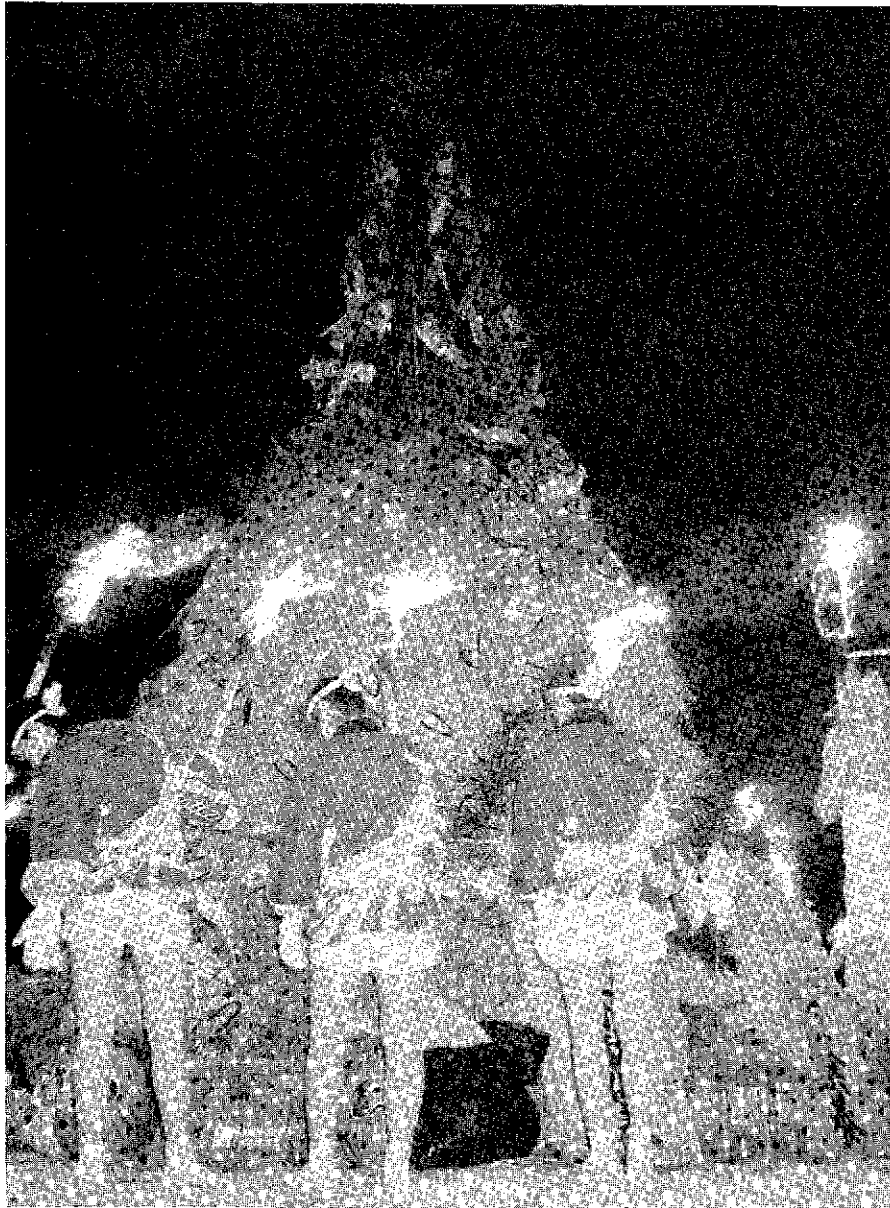
第481号

## 特集 本県公民館施設・職員の実態

月岡温泉どんと祭り(下駄供養)  
初書や二の字二の字の下駄のあと

毎年二月三日になると月岡温泉では、サヤの神ならぬ下駄供養が行なわれる。今年で十四年になる。  
温泉宮に愛される下駄に感謝し誘客増を祈願するイベントである。

(写真提供 豊浦町公民館)



# 平成四年度を振り返る

# 公民館関係施設の 連携は深まったか!?

社会変化の激しい一年が経過した。当県公民館連合会(ひいては県下の公民館界)もまたその変化の波の中で一年が終る。果たしてこの一年間の展開はどのような実りがあり、またどのような課題が提起されたであろうか。

## 公民館の役割を追究

ゆとりとふれあいの大会終了  
地域づくりに  
課題を浮き彫りに

十一月二十八日の「ゆとりとふれあいの大会」は、県下の公民館界にとって定着してきたものであり、各地の公民館員、役員、関係者、市民、子どもたち、若者、高齢者、障害者、外国人など、多岐にわたる参加者で、大いに盛り上がり、公民館の役割を追究する機会となった。

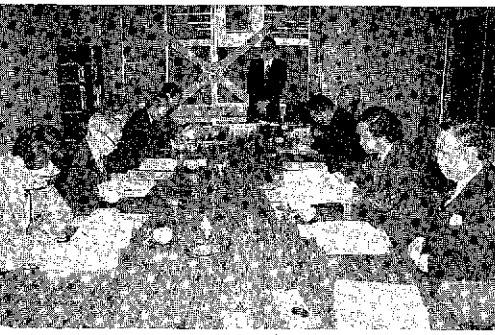


## 自己診断集計まとまる

生活課題の掘り起しは、いま、いよいよ、

昨年十二月に、県内各市町村の公民館員、役員、関係者、市民、子どもたち、若者、高齢者、障害者、外国人など、多岐にわたる参加者で、大いに盛り上がり、公民館の役割を追究する機会となった。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----



## 第四回理事會開催 来年度の事業計画等を審議

一年を振り返るには、まず昨年の関プロ公民館研究会新潟(湯沢)大会の結果までさかのぼる必要がある。その集会で浮き彫りとなった課題は、「草の根の生涯学習推進と公民館の対応」にあった。そのため、本年度の具体的な切り口を「地域づくりへの公民館の役割」におき、

公民館類似施設(集落公民館)もお巻き込んでの取り組みに力点がおかれた。

十月二十八日・二十九日に開催された県公民館大会(両津市)では「中央館、地区館、分館(公民館類似施設を含む)の役割分担等それらの在り方」についての実践発表ならびに、講演(国学院大学教授堀恒一郎氏)で研修を深めた。また、本紙でも集落公民館の実践事例を取り上げるなどキャンペーンを展開した。これらの推進策によって、各地の公民館で課題に取り組み姿も見られ、解決に一歩近づいたと思われる。

しかしながら、去る十二月に実施した「公民館自己診断テスト」の結果によれば、事業の展開はきわめて積極的でそれなり成果を得ているものの、生活課題の掘り起こしについては必ずしも十分ではないという結果を得た。さらには、集落公民館等との連携協力などについてもいましばらく時間が必要なことが分かった。

このことから、平成五年度は「くらしの中の課題」をより積極的に掘り起こし、前面に据えることが必要となった。当連合会もこのための施策を講じる必要が明らかになった。

二月二十四日(水)午後一時半から、新潟市中央公民館の会議室で、第四回理事会が開催された。

主要議題は本年度歳入歳出決算の見込みならびに会務の検討と、平成五年度の事業計画ならびに予算案づくりにあった。

予算案に関しては、これまでの重要な収入財源となっていた特別事業分担金が見込めないことから超緊縮予算を強いられる予定である。このため、今後の財源確保に向けての運動をすすめることが話しあわれた。

事業計画については、今年度の重点事業として取りあげた答の当県公連の内部組織として「主事部会」再興のための準備会は、来年度もう一年継続し、各ブロックにおいて主事部会設置のメリットについて検討する必要がある。

その他の事業計画では、第四十四回の県公民館大会の日程等詳細案について、また、調査活動についての事務局原案などの検討が進められた。

最終積極的な発言が展開され開会予定時刻を大幅に超え、午後四時閉会された。

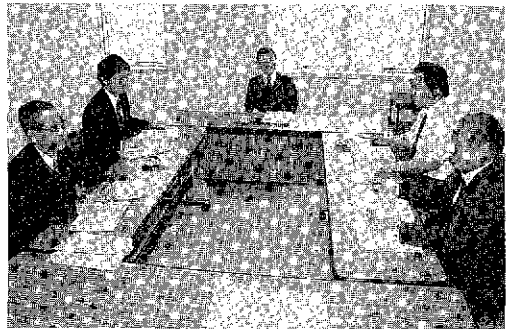
### 第3回編集専門委員会開催

## 特集紙面の刷新を話し合う

二月十日の午後一時から平成4年度第3回編集専門委員会が開催された。会場には、公民館向け視聴覚教材(映画フィルム)センターの小研修室を借用して行なわれた。

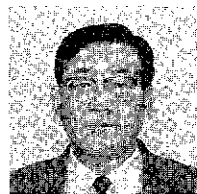
会議は、来年度の公民館月報の刷新実施策についてであって概略次のご話が話しあわれた。紙面全体の構成は従前の方式

を踏襲することとし、特集欄(四・五面場合によっては六面も使う)に力点をおいて編集することにする。その基本方向として、公民館事業の共通の課題を追い、その課題解決に向けて、提言の役割を果たす内容を、可能ながぎり実践事例を添えて提供できるようにしたいということであった。



## 「捨て上手」になりたい

十日町市公運審委員 上村 圭三



情報化時代である。連日のように様々な情報が送り届けられてくる。文書や催しの案内、出版物、機関紙・通信販売・私信……と種類も内容も多岐であり、量的にもかなりのものである。

私も捨てるのが下手である。昭和一桁の性か、もつたいたい、が先にたつ。せつたから、後で参考になるから——と何でも保存しようとする。だから机の上はすぐに乱雑になり書類等が山積みとなる。時々整理はするが、その時でもなかなか捨てきれない。ファイルは厚くなり数も多くなる一方である。どこに緩じ込んだのか不明になり探し出すのに一苦労することも一度や二度ではない。

情報化社会に育った若い職員は、取捨選択が誠に巧みである。一読して不要の物はサッとくず籠直行である。私信まで封筒ごと捨ててある。古封筒も後で使えると保存している私には、と

も真似が出来ない。学校現場で行事の見直しと精選が叫ばれているが、私にはどの行事にも意義があり教育効果が期待出来ると思えるので、英断をもって捨てるのに抵抗がある。今年度はかなりの勇気をもって精選したが、一方では惜しいと思ひ、淋しい気もしている。

十日町市の公運審には、公民館の在り方と職員体制の問題が諮問されている。高齢化社会・生涯学習の推進等々社会情勢の変化から、公民館への期待も大きく、住民からの要請も多い。新規事業や企画の導入が年々増加すると聞いている。多くの場合、それ等の新企画は前年度までの事業に上乘せの形で実施されるという。

結果として職員の業務量を増し、殺人的な勤務を強いられることになる。地区館によっては更に外郭団体の仕事加わる。地区の伝統的な特集事情もあり、難しい問題でもあろう。しかし、いつか、誰かが、どこかで英断しなければならぬ。「捨て上手」になりたい。

## 辛口

今年一月、山形県で中学一年生がいじめにあつて殺されたという痛ましい事件がおきた。

私の末娘も今年中は中学進学であるが、中学に行くとならばいじめられるといつて非常に不安がついてきた。

## いじめ社会に思う

藤本 礼子

私是最初信じられな

いろいろな聞いてみる

と、先生の目の届かな

むこととしたと新聞で

今年当に大切なことは、人を思いやられるやさしい心をもつた子供を育てることである。しかしこの思いやりとか、やさしい心というものは、人間の精神の成熟と深く関っているもので、表層的に取り組んでもなかなか効果が上がりにくいと思われ。どうしたら本当に心豊かな子供が育てられるのか、そのためにどんなカリキュラムが必要なのか、これは現代の大人に課せられた大きな課題といえる。(カウンセラー)

## ひろば

結果として職員の業務量を増し、殺人的な勤務を強いられることになる。地区館によっては更に外郭団体の仕事加わる。地区の伝統的な特集事情もあり、難しい問題でもあろう。しかし、いつか、誰かが、どこかで英断しなければならぬ。「捨て上手」になりたい。

紫雲寺町の教育委員

ができたのか……。

会では、思いやりのある子供を育てるために、町ぐるみで取り組み、先生との協力を図ることで、相当陰湿

報じられていた。



# 施設・職員の実態

## 計にみる問題点一

自己診断票の「施設の概要」についての集計結果をみる。図 1 に見るとおり、施設機能を 6 のジャンルに区分し、それぞれ 6 ～ 7 の選択肢から自己診断した結果の集計である。

全体をとおして公民館が学習の施設としてほぼ整備されていると言えよう。「集会の施設」における、ホール・会議室・集会所や「学習の施設」における、研修室(会議室)・実習室などは比較的充実している。また「設備の状況」「装備の状況」においてもほぼ充実している。しかし、細部を見ると問題の箇所もある。以下主な項目を検討する。

(図 1) 公民館自己診断「施設の概要」選択肢別度数  
調査数 市 19、町村 71

施設	実数	%	市					町村				
			20	40	60	80	100	20	40	60	80	100
集会の施設	① ホール(大集会室)	7/41	17	33	50	67	83	100	100	100	100	100
	② 会議室	12/44	27	45	64	82	100	100	100	100	100	100
	③ 集会所	9/37	24	41	59	76	93	100	100	100	100	100
	④ 談話室(コーナー)	7/32	22	38	56	73	90	100	100	100	100	100
	⑤ 学習相談室	1/7	14	29	43	57	71	86	100	100	100	100
	⑥ 児童室	1/3	33	67	100	100	100	100	100	100	100	100
学習の施設	① 研修室(兼会議室)	13/44	29	48	67	86	100	100	100	100	100	100
	② 実習室	12/30	40	60	80	100	100	100	100	100	100	100
	③ 図書室(コーナー)	5/29	17	34	51	68	85	100	100	100	100	100
	④ 展示室	6/10	60	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	⑤ 視聴覚室	5/18	28	44	61	78	95	100	100	100	100	100
	⑥ 情報コーナー	7/17	41	65	88	100	100	100	100	100	100	100
管理の施設	① 館長室	0/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	② 事務室	13/46	28	46	63	81	100	100	100	100	100	100
	③ 管理人室	9/19	47	74	100	100	100	100	100	100	100	100
	④ 倉庫	13/36	36	61	86	100	100	100	100	100	100	100
	⑤ 休憩室(更衣室)	8/23	35	57	78	96	100	100	100	100	100	100
	⑥ 印刷室	9/13	69	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	⑦ 駐車場	13/44	29	48	67	86	100	100	100	100	100	100
開放的構造	① 玄関が明るくゆとりしている	6/33	18	30	42	55	68	82	95	100	100	100
	② 事務室に入りやすい	5/26	19	31	42	54	65	77	88	100	100	100
	③ 和室以外は土足でもよい	10/20	50	83	100	100	100	100	100	100	100	100
	④ 各部屋が明るく学習しやすい	7/32	22	38	56	73	90	100	100	100	100	100
	⑤ 花壇や庭園がある	9/26	35	58	77	92	100	100	100	100	100	100
	⑥ 部屋名に工夫がある	0/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
設備の状況	① 照明が適切である	8/29	27	45	62	79	96	100	100	100	100	100
	② 冷暖房設備あり	10/37	27	45	62	79	96	100	100	100	100	100
	③ 室内電話(インターホン)あり	10/36	28	46	63	81	100	100	100	100	100	100
	④ 全館放送可能である	9/37	24	41	59	76	93	100	100	100	100	100
	⑤ 湯茶給油設備がある	13/41	32	53	73	90	100	100	100	100	100	100
	⑥ 応接セットがある	11/32	34	56	73	90	100	100	100	100	100	100
装備の状況	① 公用自動車がある	13/37	35	58	77	92	100	100	100	100	100	100
	② OA機器がある	12/29	41	69	86	100	100	100	100	100	100	100
	③ VTRがある	11/40	28	46	63	81	100	100	100	100	100	100
	④ OHPあり	11/34	32	53	73	90	100	100	100	100	100	100
	⑤ 映写に必要な機材あり	14/46	30	50	67	83	100	100	100	100	100	100
	⑥ 展示用具有る	12/35	34	56	73	90	100	100	100	100	100	100

1 談話室・展示室等について  
談話室は、市の公民館で47%、町村の公民館も63%で、充足度は高いとは言えない。展示室・情報コーナーは40%から20%といずれも設置率は低い。併置施設であったり、転用施設であったりすることによるものである。公民館の機能ということから、談話室あるいは談話コーナーとしてのゆとりのスペースは是非持たたいものである。また、展示室・情報コーナー

などについてもこれからの公民館として不可欠の機能であるから工夫が必要である。  
2 学習相談室について  
学習相談機能の必要性については、近年の生涯学習の重要性が叫ばれることから、これからの公民館の必須施設(機能)となるものであろう。  
3 児童室について  
これまでの公民館は、どちらかというと大人の学習施設として設置されてきているので、児

童室が皆無に近いのも現状では止むを得ない。しかし、これからは、いわゆる学校週五日制の導入などにより、児童室の整備を急ぐ必要がある。  
4 図書室・図書コーナー  
図書室(コーナー)は市において33%、町村では58%と低い。特に市の設置率が低い。これは、独立図書館の設置と関係するものと考えられる。つまり、「読書や読書指導は図書館で」という発想によるものであろうが、公民館は公民館としての図書室の

機能が必要とされるものである。例えば、「学級・講座」等の学習の過程で必要となる図書資料や、日常生活に必要な図書資料であるとか、個人学習への対応などである。  
6 フェイスシートに見る施設  
身体障害者用設備  
表1に見るように、身体障害者用設備の整備は、市において55%、町村では44%と必ずしも高いとは言えない。今後に期待したいところである。ちなみに、設備内容としては、トイレのみは市

# 特集 本県公民館

## —自己診断票集

### 公民館施設・職員の実態

ここに取り上げた公民館の設置状況や職員の実態は、「公民館の自己診断票」の分析とは別に、県社会教育課（その後の生涯学習推進課）刊行の「新潟県社会教育の現状」及び「公民館概観」により、二十年余にわたるこれらの推移から現状知ろうとするものである。

#### 一、公民館設置の推移

図2は「公民館設置数の推移」をしめしたものである。

1館町村7館の計8館である。その他の36市町村では、スロープやエレベーターなどの設備を整備している。

1 まず、本館と分館とを合わせた全公民館数は、昭和45年が594館で、平成4年では645館と49館の増加である。本館のみで見ると104館増で年平均4.5館の増加。その一方で、分館は逆に53館の減少であるから、従前の分館を本館に格上げしたものが多いとみられる。

2 次いで、本館の単独・複合の別では、昭和55年までは単独施設の館数が多かったのに、この年を境にして複合施設としての公民館数が多くなっている。

昭和40年代までは、「併設館」と呼び、他施設に間借りする意味が強かった。したがって極力単独館への努力がなされたものである。昭和50年代に入り、生涯学習社会の幕開けとともに、多機能学習施設の設置が歓迎されるようになり、複合施設としての公民館が出現した結果によるものであろう。

#### 二、公民館職員の推移

#### 1 本館の公民館長

図3は、公民館長の任用形態別の推移を示したものである。専任館長は20人のラインを、兼任館長もまた40人ラインをほぼ横這いの状態にある。非常勤館長が大きく増加していることがわかる。非常勤館長の設置率は70%を下らない。

専任非常勤館長の設置率が増すことは望ましいのは当然のことながら、非常勤の公民館長もまた必ずしも敬遠できない。それは、任用される非常勤公民館長は住民の良識の代表であり、教

育的職員の豊かな人たちがだからである。問題有りとなれば、これらの館長の職見や指導性を十分に発揮できるようにシステム化しているかどうかということ、この点を課題として今後十分に対応する必要があろう。

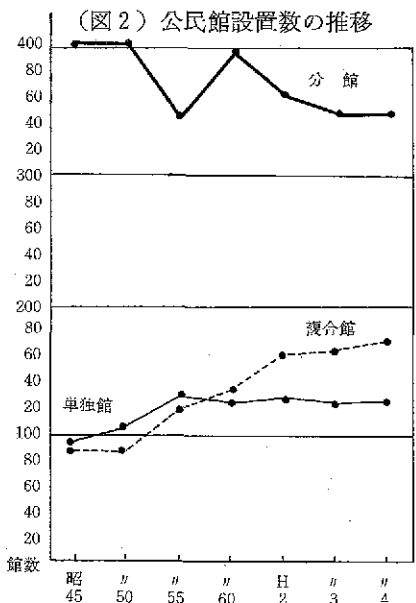
#### 2 主事・その他の職員

20年余にわたり主事の1館当たり人数は、1.8人前後と殆ど動かない。「その他の職員」を加えた一館当たり人数も2.5人弱の陣容である。公民館が生涯学習の中核施設として、住民の期待に応える事業を展開するためには、行き届いたサービスを施せ、職員体制とは言えない。加えて、勤続年数の短期間化の傾向からも、一層問題は深刻である。問題の解決に向けて努力する必要がある。

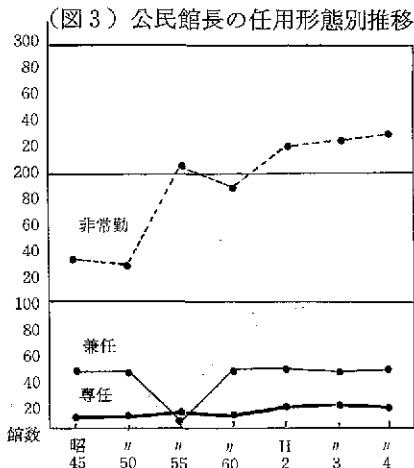
(表1) 身障者用設備  
調査数 市20、町村75

	有	%	無	無記入
市	11	55.0	7	2
町村	33	44.0	40	2
計	44	46.3	47	4

(図2) 公民館設置数の推移



(図3) 公民館長の任用形態別推移



(表2) 主事・その他の職員の推移

	昭45	昭50	昭55	昭60	平2	平3	平4
主 事	353	281	427	465	507	520	526
1館当り職員数	1.85	1.47	1.70	1.79	1.73	1.77	1.78
そ の 他	78	213	100	177	195	195	204
1館当り職員数	0.41	1.12	0.40	0.68	0.67	0.67	0.69
合 計	431	494	527	642	702	715	730
1館当り職員数	2.26	2.59	2.10	2.48	2.40	2.44	2.47

# 公民館と叫ばない公民館

## 荒屋(中里村)集落センターの場合

集落の活性化、連帯意識の強化などを目指し、更に、「もう一つの生き方」を求めて集落づくりに取り組んでいる人たちがいる。これらの活動は、自治公民館とか集落公民館の活動ではないのか、問題を提起する。

中里村は県南の豪雪の地。長野県との県境に近い山村である。第一次産業を主とする人口七千人余の過疎の村でもある。ここに紹介する荒屋集落は、村の中心部に隣接した平坦地で人口三百人余、八三世帯とコンパクトな集落である。この荒屋集落センター(公民館とは呼んでいない)の活動に、一つの問題が提起されているように思えたのであえて取材した。

中里村には、かつて多くの集落公民館があり、村の公民館と連携して活動がなされていた。しかし昭和四十年代に入ると過疎化の嵐の中で村の青年団が消

滅していった。これとあいまって、地域婦人会の活動もその存在を示し得ない状況となり、いつしか集落公民館も活動の火が消えていった。

このような状況の中で、村の若者の「青年会の灯を消すな」の声が起こり、荒屋集落でも昭和五十年代になって「青年会」が再興し、子供会、婦人会、老人会の四団体がそれぞれセパレートながら活動を続け、かつての公民館活動の名残をとどめてきた。

平成元年十二月になって「集落センター」が竣工し、集落の活性化の拠点、団体活動の拠点が産まれるに及んで、これまでのセパレートに活動していた四団体を組織化する構想が持ち上がった。そして、まず一年日は、センター長と副センター長の選任により集落センター運営の基本構想を相談した。次いで二年目になってセンター組織を六人の役員構成(運営委員)で歩みだした。(表1参照)今年度は二年目である。

(表1) 荒屋集落センター組織図

センター長	区総会で選任 任期2年、再選は妨げず
副センター長	副区長がその任に当たる 1年交替
運営委員会	構成員6名 センター長1名、副センター長1名、青年会1名、老人会1名、子供会1名、婦人会1名

(表2) 平成4年度年間事業計画

月	実施団体	事業内容
5月	子供会、老人会	親子スポーツ(毎週土曜日)一ヵ月連続 美化活動(毎月11日)集落センター、神社運動公園の清掃 春・秋の危険物拾い
6月	青年会、老人会、婦人会、子供会	焼肉大会(全区民を対象) ゲートボール練習(毎月曜日午前) 旅行 老人会と共催で「おれ合いゲートボール大会」
7月	青年会、子供会	キャンプ(グリーンピア津南) 親子レク(上越ブレイブ)
8月	区民会、老人会、子供会、区民会	村民大運動会に参加 ゲートボール大会(大村杯) 神社の草取り、町議会大会、秋夕会
9月	老人会	危険物拾い
10月	青年会	吹奏会
11月	子供会	クリスマス会の集い
12月	子供会、青年会	焼肴やお酒、集い どうらく神焼き
2月	区民会	雪上運動会

この荒屋集落センターの運営の特徴は、これまでの四団体が独自の団体として活動してきた実績を尊重し、連合体としてまとめた形をとっている。したがって、経費面を見ると、集落センターの運営費は年間三十万円(区費から支出)。このうちから五万円が団体育成費であるとともに事業費のすべてとして拠出している。(他の二十五万円は



荒屋集落雪上運動会

活活性化の拠点、団体活動の拠点が産まれるに及んで、これまでのセパレートに活動していた四団体を組織化する構想が持ち上がった。そして、まず一年日は、センター長と副センター長の選任により集落センター運営の基本構想を相談した。次いで二年目になってセンター組織を六人の役員構成(運営委員)で歩みだした。(表1参照)今年度は二年目である。

この荒屋集落センターの運営の特徴は、これまでの四団体が独自の団体として活動してきた実績を尊重し、連合体としてまとめた形をとっている。したがって、経費面を見ると、集落センターの運営費は年間三十万円(区費から支出)。このうちから五万円が団体育成費であるとともに事業費のすべてとして拠出している。(他の二十五万円は

子供自身の組織を持ち、子供だけの活動を実施しているが、親と一緒に活動になりがちだという。中でもいま活発なのは、「親子の料理教室」「親子スポーツ教室」(区内に村の中学校があることから、五月から十一月までの毎週土曜日)

2 青年会(会員18名)  
メインの事業は、年一回ながら全区民を対象とした「焼き肉大会」が好評の由。というのはこの農村小集落内でも、区内住民の顔や名前が分からなくなり

つがある。このための区民の交流の場として歓迎されているという。その他青年自身のための事業など表にあるとおり。

3 婦人会(会員50名)  
活動自体は控えめ、荒屋集落の婦人部は村内でも最も若い人たちが加入しているという。それだけに、今後の活動方法をと模索している由。

4 老人会(会員45名)  
美化運動を主に表2に示された活動を活発に行なっている。さて、センター長の山田正人氏は「私の仕事はセンターの維持管理です」と言う。しかし、これらの事業の横の連携や運営に関する相談にのる仕事が大変な役割になっているようだ。特に青年会の役員が熱心に事業の取り組みや、経費の捻出方法などの相談やアドバイスをうけている由。

山田氏は、まだセンター開所二年目であり全てが試行錯誤の連続と言いつつも、センターの一室を読書室にし、第二土曜日の午前中を子供たちに開放してやりたいとか、村の公民館の協力を得て、新しい時代に生きるもう一つの生き方を学ぶ学習も実現したいものだとして二年目以降の抱負を語ってくれた。



# サークル交流

## 対話をとり入れた

### 読みきかせ

#### 川西町読みきかせの会

##### ふきのとう

「本好きな子に育てたい」という願いをもった若いお母さん方が公民館活動として自主的に結成した読書サークルです。毎月子ども本の学習会を開いたり、地域で二カ所子ども本の読みきかせを実践しています。(毎回子どもと共に楽しむ活動を工夫してとり入れられている)その他、人形劇の巡回公演や有線放送での昔話の担当ですっかり

町民にいたしましたまれてきています。

この会を支えているのは、子どもたちと喜びを共感できる若々しいエネルギーです。それと周囲が暖かく見守り育ててくれたことも大きな励みとなっています。(日本生命財団よりの助成金・県生涯学習モデルとしてのテレビ紹介・町生涯学習推進大会や県優良読書グループの表彰等) 本年は発足五周年記念事業として、松戸市おはなしキャラバン理事、浜島代志子氏を招いて、子どもとの対話をとり入れた読みきかせ方の講演会や絵巻物語の上演を主催して好評を得ました。

(ふきのとう) 会長

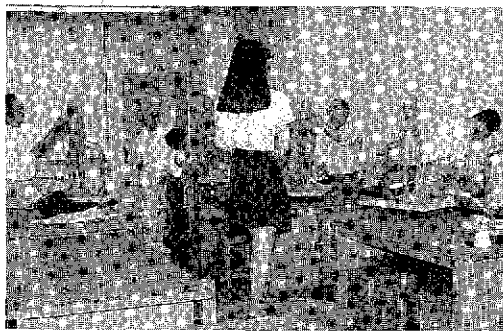
北村フミ子 記

## 彫塑を通じたふれあい、仲間づくり

### 三条市「杜の会」

当市中央公民館で4年前から実施しているアート・サロン「彫塑の世界」修了生による自主サークルとして、平成3年に設立されました。

会員数は13名。毎年、秋の市



展やサークルのグループ展に照準を合わせて作品の制作に余念がありません。また、その一方で、アート・サロン「彫塑の世界」の教室受講生の指導にあたるなど、ほぼ通年で、毎週水曜日の午後7時〜9時の2時間、職場や家庭で多忙な人達が諸事情をやりくりして創作活動に励んでいます。

教室の最終日には、教室生と合同で作品合評会、反省会を行いお互いの交流や技術向上に努めています。

なお、平成5年4月3〜4日の両日、同会の作品発表会を予定しておりますので、ぜひ、ご来館ください。

(三条市中央公民館

吉田毅 記)

横越村中央公民館 主事

上村真喜雄氏(56歳)

三十年前、前任者の彼と私の歓迎迎会が行われ、田村館長から「上村助教」と紹介され、公民館にも大学のように、教授、助教がいることに驚いた。ご覧のように、彼は若い時からどっしりと落ちつき、どこか学者のような風貌があった。当時、午後五時を過ぎると、



村の名士たちが申し合せて、公民館に集っては、

## 素顔拝見

茶碗酒で世間話をし、月岡温泉へ二次会に向うこともしばしばであった。彼を芸者衆に、青年学級講師の大学助教と紹介したのが呼称のはじまりで、以後「助教」で大変もてたとか。昨年公民館に戻ってきたが、セカセカした公民館人とは異色のタイプ。読書が大好きで、本屋では村でも指折りのお得意様とか。バックには本がいつも数冊入っている。学者の風貌は健在で、今度は、「教授」として活躍を期待したい。

(横越村中央公民館 館長 泉沢 宏一記)

栄町公民館 社教主事

坂井 寧氏(35歳)

公民館に勤務して7年というベテラン、現在公民館で社教主事の資格を持つただ一人の貴重な存在。それなりに重宝がられて休む暇なしの毎日だ。年間を通して大きな行事、成人式。町展はもちろん秋の文化行事。町民がこぞって一年に一度一堂に会して行う町民大運動会。芸術・文化関係の教室、講座に関する一切。社会教育関係団体の育成から青年教育、地域おこし青年会議事業と目白押し。の事業を手際よく切り盛りしている。



社教主事 講習受講時の盟友も全国に多くおり、昨年十二月町の「人材育成資金」を頂き九州地区鹿児島県、福岡県へ七日間の研修に出かけた。こうして新しい息吹きを町の活性化のために導入することに常に心をくわしている。こうしたハードスケジュールの中にあっても一女一男の良きパパとしての勤めを忘れない彼である。

(栄町公民館館長 楠 利雄 記)

# ネットワーク

## 支援・援助機能の充実を目指して

### 県立生涯学習推進センター

県立生涯学習推進センターがオープンして一年近くになる。センターでは県民の生涯学習の促進を目指し、県内市町村、教育施設等への情報提供を行ったり、学習相談に応じることを中心に活動しながら、県民や関係機関への支援・援助を行っている。

### ご存じですか

### こんな公民館教材があります

開所以来二月末までの来所者数は三千百余名、相談件数は三百件にのぼり、県民の学習意欲の高まりが感じられる。

一方、市町村の生涯学習・社

会教育関係職員等を対象として、学習プログラムの立案方法、各種イベントの実施計画の立案方法等についての研修会、生涯学習推進員養成のための研修会等を行い、多くの方より受講い

座が開かれ、継続学習の末学習者による自主サークル活動に発展し、環境改善や住民の交換、住みよいまちづくり、お年寄りの福祉の向上等々に行政の協力のもと、それらの実現に努力する様々の主体的活動を中心に描いたもので、社会教育施設としての公民館の果

ただいた。

また、県民に対する学習機会の提供としてシニア・カレッジ、ウーマン・カレッジ、放送大学番組利用学習講座、いきいき県民カレッジを開設していた。

平成五年度は、いきいき県民カレッジの充実をはじめ、各種

研修会の開催や調査・研究の充実を通じて、センターの役割である支援・援助の機能を一層強化したい。

さらに、情報提供の充実として、「生涯学習にいがた」の紙面充実を目指したい。また、学習相談の機能を充実させるためセンター職員の研修や関係機関からの情報収集を積極的に行いつつある。現在作成中の「生涯学習役割の重要性をうったえている作品」。

### あ と が き

◆おわびと訂正  
前月号(第480号)二面の表2の公民館費の金額が誤っておりました。謹んでおわびをし、次表のように訂正いたします。

⑤	千円以上	44
④	1,000~501円	21
③	500~301円	10
②	300~101円	9
①	100円以下	3
	無回答	3

(上村記)



放送大学受講スナップ

## 仲間たちがいて喜びがある



仲間たちがいて喜びがある ~公民館活動~

〈表1〉16mm映画 題名

素敵にボランティア ~受け手の気持ちを考えて~	31分
仲間たちがいて喜びがある ~公民館活動~	30〃
おじいちゃんが階段をおりるとき 明るい長寿社会をめざして~	39〃
小さな家族 ~おばあちゃんがいてぼくがいた~	55〃
みなおそろわが子の食事 ~小児成人病時代を生きる知恵~	31〃
トキよ舞い上がれ ~菓立ちの記録~	23〃
エイズ汚染を防ぐ ~正しい知識と予防~	25〃
アルプスの少女ハイジ〈アニメ〉	107〃

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博

編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部130円 年共1,560円】